

JA全農ウィークリー

2面

スタチ搾汁残渣など未利用資源の有効活用へ 徳島県、徳島大学と産学官連携協定を締結(徳島県本部)

4面

ファミリーマートと「農協ごはん」を通じて米消費拡大
売り上げの一部を活用しこども食堂に寄贈も(米穀部・営業開発部)



宮城県の健康推進イベントに「野菜摂取で健康ブース」を出展(4面)



(株)KOMPEETIOが運営する自動販売機で福島県産桃を無料配布してPR(2面)



協定書を締結した(右から)長江郁哉徳島県本部長、飯泉嘉門徳島県知事、河村保彦徳島大学学長(2面)

2 桃の自動販売機でプロモーション
(福島県本部)

3 「国際食肉科学技術会議」へ協賛・出展
(畜産総合対策部)

協同乳業と連携し「オンライン牧場体験」
(酪農部)

4 健康推進イベントで
宮城県産野菜をPR(宮城県本部)

5 JAズームイン(三重・JAいがふるさと)

6-7 全農グループ会社探訪
全農畜産サービス株式会社
(広報・調査部)

8 2022年度「ミスあきたこまち」7人が決定
(秋田県本部)

JAタウンに「ニッポンエールショップ」
オープン(全国農協食品(株))

JAタウンショップ紹介
飛騨・美濃うまいもん広場

Web版JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

Web
限定

セブン-イレブンで飛騨トマトを使用した
商品を発売(岐阜県本部)

JR京都駅前地下街に「みのもるダイニング
京都ポルタ店」オープン(京都府本部)

「セブンプレミアム 岩手県産完熟
山葡萄サワー」発売(営業開発部)



News!



スダチ搾汁残渣など未利用資源の有効活用へ

徳島県、徳島大学と産学官連携協定を締結

徳島県本部

徳島県本部は8月1日、徳島県、徳島大学の関係者14人出席のもと、県庁で「産学官連携による地域バイオマスを有効活用した持続可能な農業の実現と関連産業の振興に関する協定書」の締結式を行いました。

3者の最初の取り組みとして、県はスダチの搾汁残渣ざんさを利用した精油の研究に関する知見の提供、徳島大学は精油の抽出技術や生産プロセスの開発などに協力、県本部は化粧品や食品などに利用できるスダチフ

レーバー、フレグランスの製造・販売を手掛け、収益を生産者へ還元し、手取り向上と生産振興につなげていきます。

県庁で行われた締結式では、飯泉嘉門県知事、河村保彦学長、長江郁哉県本部長が協定書に署名しました。



協定書を締結した(右から)長江県本部長、飯泉県知事、河村学長

今後、3者が有する人的資源や物的資源を有効に活用し、スダチ搾汁残渣などの未利用資源に付加価値を創出することで、県内農産物の生産振興に寄与し、持続可能な開発目標(SDGs)や「みどりの食料システム戦略」につながる環境配慮型事業の展開を目指す。

News!



桃の自動販売機でプロモーション

旬の福島県産桃を都内3カ所で無料配布

福島県本部

福島県本部は8月3日、東京都内に設置されている自動販売機「SALAD STAND」サラダスタンドを活用し、旬を迎えた福島県産桃をPRしました。

福島県は桃の生産量が全国2位で、主力品種「あかつき」は品種別生産量でもトップクラスとなっており、さまざまな消費宣伝プロモーションに取り組んでいます。ですが、コロナ禍でも「あかつき」のおいしさを一人でも多くの方に知っていたきたいとの思いから実施。桃まるまる1個をパッケージした商品を、渋谷・恵比寿・有楽町の3カ所に

設置された自動販売機「SALAD STAND」で各150個ずつ無料配布しました。旬の桃とあって大変好評で、お昼過ぎには準備した数の大半が消費者の手に渡る場所もありました。

福島県産桃の出荷は9月中旬まで続くことから、8月26日にも「黄金桃」で同様のプロモーションを実施しました。



(株)KOMPEITOが運営する自動販売機で無料配布してPR



「国際食肉科学技術会議」へ協賛・出展

メインテーマは「食肉の未来を考える」

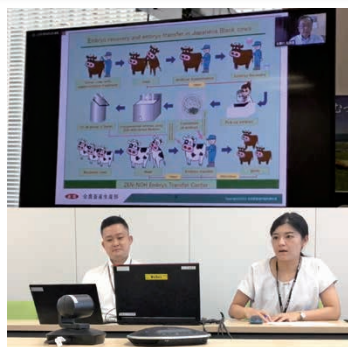
畜産総合対策部

全農は8月22～25日に開かれた「第68回国際食肉科学技術会議（ICoMST）」に協賛・出展し、畜産事業におけるバリューチェーンを紹介しました。

ICoMSTは食肉科学の発展と世界の食肉産業の成長に多大な貢献をしてきた、食肉分野では世界最大級の学術会議です。日本での開催は23年ぶり2度目となり、今回はコロナ禍を考慮して神戸をキーステーションにWeb開催となりました。世界約33カ国・地域から約300人の参加があり、Web会場ではeポスターによる研究発表やビデオ会議の基調講演が行われたほか、参加者間の交流はチャットアプリが使用されました。

全農は本会議にシルバースポンサーとして協賛し、英語版全農リポート・CM動画「つながる食卓」をバーチャル展示しました。また協賛企業の中では唯一Webプレゼンテーションを行い、本会畜産事業の中から①飼料穀物の輸入②受精卵移植（ET）技術③和牛輸出の取り組みを日英2言語で紹介しました。参加者からは和牛の輸出や品質に関して多くの質問が寄せられました。

Webプレゼンテーションでの発表・質疑応答



バーチャル展示（CM動画）



協同乳業と連携し「オンライン牧場体験」

生産者とSC相模原のファン・サポーターが交流

酪農部

全農は8月24日、協同乳業と連携し、酪農と牛乳乳製品の魅力を発信する「酪農の輪プロジェクト」の一環として、SC相模原のファン・サポーターをリアルタイムでつなぐ「ガミティが行く！オンライン牧場体験」を開催しました。

協同乳業がスポンサー契約を結ぶJ3のサッカークラブSC相模原のファン・サポーターを対象にオンライン牧場体験を開催。配信会場のAgventure Lab（東京・大手町）では、マスコットキャラクターの「ガミティ」が出演しイベントを盛り上げました。

参加者には、事前に牛の餌や牛ふん堆肥を送付し、牧場の「匂い」も再現。（株）山岸牧場（北海道JA上士幌町管内）の山岸利明さんと娘の北出愛さんが出演し、搾

乳や給餌、ふん尿処理について、送付した同じ教材を使いながら解説。産まれたばかりの子牛など、その時間にしか見ることができない牧場の臨場感を大切にしながら配信しました。

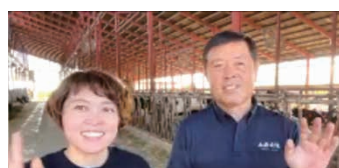
子どもたちからは「大変な仕事だと思うが、やりがいは何ですか？」「大切に育てた牛さんとお別れするのは悲しいですか？」など次々に質問が上がり、酪農を通じて命の大切さや、牛乳・乳製品への愛着を深めてもらいました。



オンラインで参加したSC相模原ファンの子どもたち



ミルク博士（左）とガミティ（右）



オンライン牧場体験で講師を務めた山岸さん親子

News!



健康推進イベントで宮城県産野菜をPR

プレゼントやクイズなどで健康と消費呼びかけ

宮城県本部



「野菜摂取で健康ブース」を展覧



全農が開発・販売する「ミルクティー」と「カフェ・オレ」をPR

イベントは地元の食と魅力を発信するとともに、県民への食生活や健康習慣の見直し・改善への啓発を目的に開催され、県本部は「体感して楽しく学べる食と健康」をテーマに「野菜摂取で健康ブース」を出展しました。野菜の日（8月31日）に向けて「野菜の重さ当てクイズ」などの野菜縁日を実施し、実際に野菜に触れていただくことで、県産野菜の認知拡大と消費の促進を行いました。

セミナーでは、大友良彦県本部長と村井嘉浩県知事、寶澤篤東北大学教授が「野菜による高血圧予防効果」をテーマに鼎談。参加者に県の農業情勢や野菜の健康効果を知ってもらうきっかけとなりました。同日には仙台駅東西通路で全農が開発した「ミルクティー」と「カフェ・オレ」を販売しました。仙台七夕まつりでにぎわう仙台駅で、利用客や観光客らに牛乳の消費拡大を行いました。

宮城県本部は8月6日に開催された「みやぎ食と健康の未来フェア」に協賛し、参加者に県産野菜を提供することで、健康促進と消費拡大を行いました。

News!



ファミリーマートと「農協ごはん」を通じて米消費拡大

売り上げの一部を活用し 子ども食堂に寄贈も

米穀部・営業開発部



全農とファミリーマートは協業を通じて、国産農畜産物の販売・消費拡大に取り組んでいます。米の1人当たり年間消費量は、1962年度の118・3kgをピークに減り続け、2020年度では50・8kgと60年間で半分以下にまで減少しています。そこで、新たにファミリーマートの関東地区で「農協ごはん」を販売することで、米

全農は9月13日から、パックごはん「農協ごはん」をファミリーマートの関東地区で販売を開始し、米消費拡大に取り組めます。同日から2カ月間（予定）の売り上げの一部を活用して子ども食堂に「農協ごはん」を寄贈します。

この企画を通じて、日本の次世代を担う子どもたちにも、ごはんをより手軽に、よりおいしく食べてもらうことで、健やかな成長をサポートするとともに、お米の消費拡大に取り組みます。

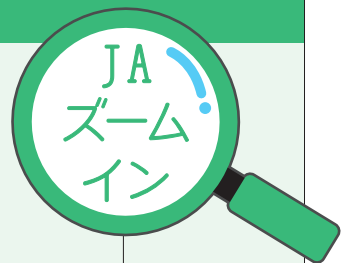
関東地区のファミリーマートで販売する「農協ごはん」





野菜ソムリエによる品目紹介の店舗POP

JAいがふるさととは、三重県の北西部に位置し、北は滋賀県、西は京都府・奈良県と接する、海拔400〜500mの山地に囲まれた盆地の地域です。盆地特有の寒暖差と良質な土壌に恵まれた環境を生かし、米や肉牛、梨、アスパラガス、ネ



大型直売所を拠点に 活発に情報発信、交流

ギなど、多様な農畜産物を生産しています。

「ソムリエのいる店」
料理教室や食育授業

「とれたて市ひざっこ」は、豊富で新鮮な地元食材を求める消費者や、販路確保が課題である地元生産者の声の高まりを受けて、管内エリア初の大型農産物直売所として2015年にオープンしました。「野菜ソムリエのいる店」をキャッチフレーズに、旬の野菜や果物の選び方、素材に合わせた料理法、保存の工夫などを店頭POPやSNSを通じて消費者に提案するなど、農業やJAを身近に感じてもらえる情報を積極的に発信しています。



消費者と交流する野菜ソムリエ

「料理教室」「味噌づくり」の開催に加え生産者による対面販売、品評会の開催、地元小学生の見学受け入れ、幼稚園へ赴いての食育授業の実施など定期的なイベント開催を通じて、地域コミュニティの活性化や食農教育の実践にも取り組んでいます。

商品は、安全安心の提供

JAいがふるさと (三重県)



概要

(2022年3月31日現在)

正組合員数	1万968人
准組合員数	9482人
職員数	617人
販売品取扱高	57億4千万円
購買品取扱高	59億3千万円
貯金残高	2857億5千万円
長期共済保有高	6513億円
主な農畜産物	米、肉牛、イチゴ、 梨、ブドウ、メロン、トマト、ネギ、 シイタケ、柿、アスパラガス、ナバナ

とおいしさの提案をコンセプトに、地元伊賀産を中心に県産・国産を取り扱っています。2022年3月からは、伊賀米「コシヒカリ」を100%使用したパックご飯の販売を開始。手軽に地元のお米の味を楽しめる機会の提案を通じて、人と人のふれあいを大切にしています。

農業の振興と活性化に 向けた取り組み

農家の所得増大を目指すため、出荷者には品目や作型の分散、面積拡大、品質向上を促しつつ、消費者ニーズに応え「売れるものを作る」という意識改革に取り組みんでいます。今年3月末時点で、出



管内初の大型農産物直売所としてオープンした「とれたて市ひざっこ」

荷登録者は560人となり、新鮮な農畜産物を出荷しています。利用者は年々増加し、21年度売上高は5億3860万円となりました。

今後も、直売所を生産者と消費者をつなぐ拠点として、地域の期待に応えていくとともに、地域農業の活性化に向けた取り組みを進めていきます。

全農グループ 会社探訪

全農畜産サービス株式会社



畜産生産者の経営をトータルにサポート 素畜から防疫機器まで優良な施設や資材を全国へ



秋田大仙SPF豚センター



豪州産乳用育成牛



背負い型噴霧機「オルサスライト」の使用状況



多産系ハイコープF1メス種豚

全農畜産サービス(株)は、「フリーディング事業」「資材事業」「施設事業」「海外事業」など、日本の畜産経営を支援するため、高度な専門性とトータルコーディネート力を備えた畜産専門会社です。北海道から九州まで全国各地に農場、営業所、駐在を展開し、畜産生産者に優良な畜産資材を届けています。

【広報・調査部】

1991(平成3)年7月に、家畜の生産性向上による生産者の所得向上への貢献を目的に高度専門化する畜産施設や資材を取り扱う専門会社として設立されました。以後、国内畜産業の情勢変化に対応し、2004(平成16)年以降は、種豚、素ひな、素牛、素馬、飼料などの品目や農場施設を全農と旧(株)組合貿易から譲り受け、現在に至っています。設立当初は社員数14人の

種豚供給で最大シェア 国内トップブリーダー

フリーディング(種豚)事業では、全農グループが育種改良し、普及推進を行っている「ハイコープ豚」の種豚、精液の生産、供給を行っています。ハイコープ種豚

は繁殖能力と産肉能力に優れた齊一な種豚です。北海道の全農飼料畜産中央研究所上士幌種豚育種研究室で開発され、養豚研究室で性能を確認したのち、GGP農場で改良・増殖されます。その後、各地のGP農場で、ハイコープF1種豚を高い衛生状態を保ちながら生産し、疾病感染リスクも排除した、安心・安全な種豚を全国の養豚農家に安定的に供給しています。

また、資材事業では、多種多様な畜産資材を取り扱うとともに、ICT(情報通信技術)機器や新素材など、先端資材の開発・発掘にも取り組んでいます。持ち運びできるLPガス使用の発電機「エルソナ」は防災へのニーズ

常に挑戦する職場風土を醸成し 畜産専門会社のブランド確立へ

代表取締役社長 種田 貴至氏

当社は昨年創立30年を超え新たなステージに入りました。創立30周年を迎えるにあたり、会社独自の経営理念とシンボルマークの策定に社員全員で取り組みました。当面の課題として「ハイコープ種豚の絶え間ない改良・増産」と「創立以来の取扱品目である畜産資材の事業再構築と商品開発」を挙げています。いずれも一筋縄ではいかないものですが、常に挑戦する職場風土も醸成しつつ達成したいと考えています。



真面目でコツコツ働くのが当社の職場風土です。当社の経営理念、「私たちは、いのちを育み、豊かな食を創造し、みんなの笑顔をサポートします」のもと、次なるステージにおいても全農グループ会社として誇り高く仕事を行い、畜産生産の専門会社としてブランド確立できるよう社員一同精励します。



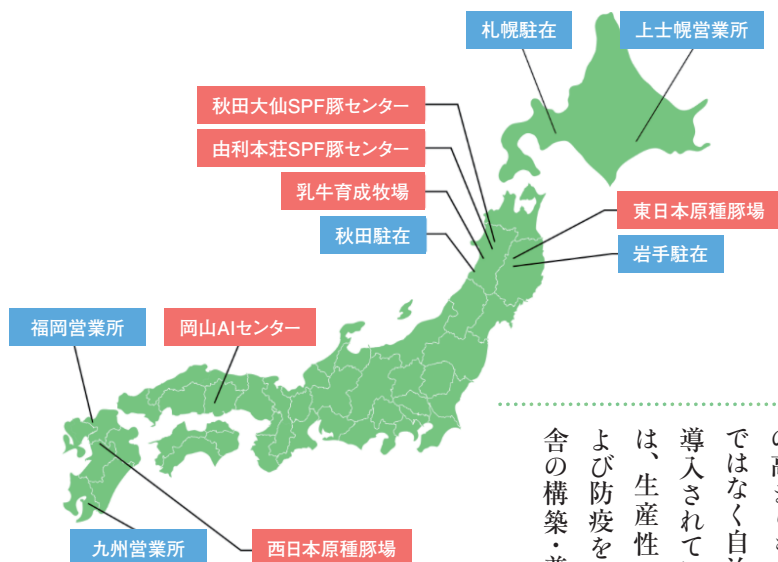
過酢酸自動噴霧機
「オルサスミスト」



過酢酸据え置き型
噴霧機「オルサス」



ガス発電機「エルソナ」



の高まりもあり、畜産施設だけではなく自治体や公共施設にも導入されています。施設事業では、生産性・作業性・経済性および防疫を兼ね備えたモデル畜舎の構築・普及を目指しています。海外事業では、豪州産乳用育成牛に黒毛和種の受精卵を移植した初妊牛を都府県中心に供給し、酪農家の経営安定に貢献しています。また、乳牛凍結精液、動物用ワク

チンの原料となる有精SPF鶏卵などの輸入販売を行っています。

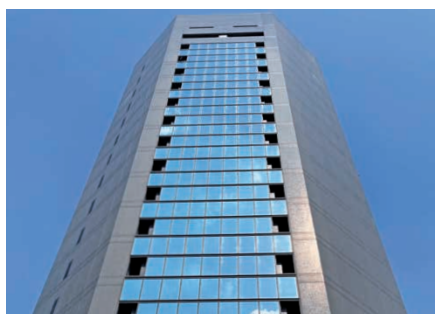
より安全な生産目指し 多様な機材の開発も

新たな商品として、防疫と食の安全に寄与するため、全農が推奨する除菌液「過酢酸製剤ビネパワー」の事業化に取り組んでいます。過酢酸製剤は酢酸を主成分とした除菌剤で広範囲の微生物に高い除菌効果があり、人や食品への安全性も高いことから世界でも注目されています。あわせて、除菌液を有効に、かつ安全に使用するための機材開発にも力を入れています。

過酢酸は強酸性のため機材のステンレス化が絶対条件で、これを実現した代表的な商品が背負い型噴霧機「オルサスライト」、据え置き型大型噴霧機「オルサスKLC25」、スイッチ一つの自動噴霧機「オルサスミスト」です。この他にも、防疫の基本である靴裏の除菌を徹底するための大容量除菌マットも菌・ウイルス対策の必需品として提供しています。

会社の概要（2022年3月31日現在）

- 本社所在地** 〒135-0041 東京都江東区冬木11番17号
- 事業内容** 畜産経営の全分野にわたる施設や資材などの開発・供給
- 設立年月** 1991(平成3)年7月
- 代表者** 代表取締役社長 種田 貴至
- 従業員数** 213人



本社（インサビル）

公式ホームページは
こちら



<https://www.zcss.co.jp/>

2022年度「ミスあきたこまち」7人が決定

秋田米の魅力と生産者の思いを全国へPR

秋田県本部は2022年度「ミスあきたこまち」を決定し、8月23日に秋田市で委嘱状交付式を行いました。【秋田県本部】

交付式では、県本部運営委員会の斉藤一志会長が市女笠と平安時代の旅装束姿の「ミスあきたこまち」7人に委嘱状と記念品を手渡しました。斉藤会長は「一人一人が秋田の代表として秋田と消費地を結ぶ懸け橋となって活躍することを期待している」と激励しました。

7人を代表して佐々木南美さんが「歴代

の『ミスあきたこまち』の先輩の活躍を引き継ぎ、秋田米の魅力と生産者の思いを全国の消費者へお届けします」と決意表明しました。

昨年と一昨年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で募集を見合わせたため、3年ぶりの委嘱となりました。

任期は9月1日からの1年間。「ミスあきたこまち」は全国各地で開催される秋田米の販促キャンペーンに参加し、秋田米をPRします。



「ミスあきたこまち」を委嘱された7人



これから1年間の活動について決意表明

JAタウンに「ニッポンエールショップ」オープン

全国のブランド商品が大集合、
記念の詰め合わせ限定BOXを販売

全国農協食品(株)は8月30日、全農が運営する産地直送通販サイト「JAタウン」内にニッポンエールブランドの商品を販売する「ニッポンエールショップ」をオープンしました。【全国農協食品(株)】

これまで、ニッポンエール商品専門のJAタウンのショップはありませんでしたが、商品の購入を希望する多くのお客さまの声を受けてオープンしました。ショップでは全農グループMD部会で開発した、全国ご当地グミやドライフルーツ、「こめカリッ」など、全国各地の国産素材を原料に使用した商品を販売します。



オープンを記念して、9月末まで、各種商品の詰め合わせ限定BOXを特別価格で販売しています。その他、「よりどりセット」や「地域別セット」など、選ぶ楽しみを感じていただけるような品ぞろえにしています。

国産素材を使った加工品の販売を通じて、産地の魅力をお届けします。

ショップはこちら



飛騨・美濃うまいもん広場

岐阜県JAひがしみの管内で栽培された「東美濃ぼろたん」は、加熱すると渋皮が鬼皮と一緒にぼろんと簡単にむける大粒の和栗です。過去には、天皇即位後の宮中行事として執り行われた大嘗祭に^{だいじょうさい}供納する栗に選ばれました。収穫後は1か月以上低温貯蔵することで甘みが増します。

食べ方は、焼き栗や蒸し栗のほか、栗ご飯やスイーツにするのもおすすめです。この時期しか味わうことができない秋の味覚をお楽しみください。

※10月下旬ごろからの出荷を予定しています。



東美濃ぼろたん(1kg(サイズ:2L~3L))
……3940円(税込み)

ご注文はこちら



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは ☑ shop@ja-town1.com

